

服飾史家である中野香織さんと、映画評論家で字幕翻訳家の齋藤敦子さんの往復書簡的コラム。ファッション誌の映画コラムニストとフランス映画社宣伝部員として出会った中野さんと齋藤さんは、以来十数年、友情を育む。この連載では、イギリス文化とフランス映画という専門分野をベースに映画談義が交わされる。

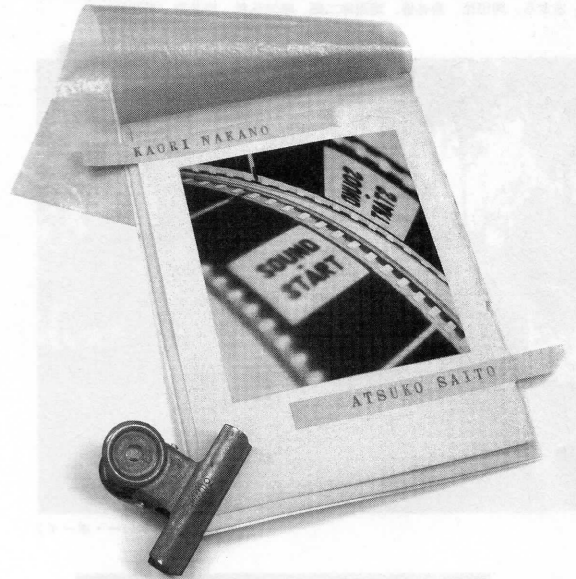
# ドーバー 越えて

往復連載

齋藤敦子  
中野香織



「頭文字D」  
シネマミラノほか東急・松竹系で上映中



オブジェ制作=井上陽子

## FROM United Kingdom 中野香織 ⑦ 海の向こうでお墨付き

ヴェネチア、おつかれさまでした。今回も河北のウェブサイトで敦子さんリポート、拝読しておりましたよ。

政府とマスコミが介入しすぎるのをいやがるイタリア映画界。かたや、政府とマスコミに介入してもらってなんとか存在感をアピールしようとしている、日本ファッション界。この秋にはなんと経済産業省主導で「日本ファッションウィーク」をやるって。東京国際映画祭ともリンクさせて、世

界中からバイヤーやジャーナリストが集まる一大イベントにしたいらしい。

でもどうなんでしょ、日本人って自国の才能は海外でお墨付きをもらってはじめて目を向けようってところがあるでしょう？たとえば、いますごく勢いがある「マスターマインド・ジャパン」っていうブランドがあるんですが、そのデザイナーの本間正章も、欧米で話題になってようやく日本に逆輸入されるような形で認められ始めた。北野武監督なんかと似たような認知経路。

ヴェネチアで「アジア映画秘史」としてマニアックな日本映画の回顧上映があったっていうリポートを読んでふと思ったんですが、じゃあ、パリやミラノのコレクショ

ン開催中に、現地で「ジャパン・ファッション秘展」やればいいじゃん！日本でおカミ主導でこそそそやるより、はるかに宣伝効果は大きいぞ。

ま、わたしがほえてもしょうがない問題はさておき、恒例の美男の話。「頭文字D」以来、華流美男に目覚め、シヨーン・ユ一にエディソン・チャン、ジェイ・チョウにアンソニー・ウォンと、各種美男ぞろぞろの「頭文字D」チームの来日記者会見に。場をさらったのはやはりアンソニー・ウォン。「投げられた質問は違う方向へ打ち返して笑いのホームランをとれ」のスターインタビュー・セオリーを余裕で実践して若手とは段違いの男っぷりでしたわ。

そのウォンよりも強烈な印象を残したのが杉本彩で。日本でのCDデビューを飾るジェイ・チョウが杉本彩から花束を贈られたんですが、姐さん、胸元もお腹も背中も脚も露出したビタビタのドレス姿で現れました。イタリア男が居並ぶ会場だったら称賛のため息がもれているところですがここは日本、会場でもれたのは、笑いだったのです！ 恥ずかしがるジェイとのコントラストもあったとはいえ、艶女の露出型盛装？ は日本ではお笑いの対象になりうるって、ちょっとした驚き。杉本彩、カンヌのレッドカーペットでも歩いてお墨付きをもらって……もやはり日本に帰ればこの路線が賛美の対象になるのはキビシイか。